雜記

二

宮島可二郎

早稲田大学図書館
文書27
D 39

東宮正殿上梁文

元 盧摯

玉冊金文既正東離之位桂宮蘭殿載弘海震之基蓋將別家嫡以繫人心所以敦儲闈而貳宸極恭惟皇帝陛下統重光之萬世德冠百王以示世之英姿修睦之隆典頃因定明爰用朝周非遵豫之期率咎社稷之計每攄於思隆万世之事其必心能

樓簷章之材聲般輸梓匠之枝規模素定

汀築時施蒲葦樓拱自辰于周圖飛橋複

道接雲氣于蓬萊允叶萬謀共扶虹棟

敢申善頌以相歡謹

拙梁東太掄滄波于海通玄殿向安儕伏

曉聲忽浮動廣寒宮

拋梁西京觀魏武太白低昂垂旗捷亟今

域信徽笔氏

拋梁南天策元勳自哥奏鉛槧小才薄院筆

凝児官事竟何堪

抛梁北勿謂天高人巨測居卿半夜望前星運

昌榮拱辰極

抛梁上西圖歡欣觀兩金相玉裕德無疵主意

策桃神目享

抛梁下翼々青宮棠廣厦横垂問道車師

儒郤笑瀛洲非大雅

伏願拋梁之詼解鶴禁誕荷鴻休

得保傳芭之踪有賓客如雲盡歡盛事

盡西賓之歡盟國撫軍大尉兆民之望

前段：決之本在心
後段：言快有君子小人之別

快字解

前段中前段：身之快ヲ言ヒ 後段：心快ヲ言フ 始メ快ハ身ノ快ト心快ト両方ヲ有ス故ニ一頭両脚ノ体也 此文章ハ双扇格

前段：双提ヲ以テ之ヲ起シ 後段：双提ヲ以テ之ヲ収ム 古文章ノ翻来覆去ノ義文

前段：快ノ字ヲ説ク時ハ字心ニ従ヒ後段：快ヲ説ク時ハ故ニ快ヲ多折ニヲ作リシ文也

快ハ心ト快ノ二層ニ層ニ跨ル

好快悪不快人之常情也何謂快所聡適耳所是適目所
艶且食適鼻子口四肢百骸莫所不適謂之快也蓋
身之快非心之快也何謂心之快悪之如悪臭心則快好善
如好色心則快矣心苟快則身所以為快者必帰
於快矣則快之本在心而不在身故快字従心
君子先心之快而後身之快故心常快雖終身
不失身之快矣小人肆身之快而不顧心之快吉故心
無不快而身之快亦随亡矣君子小人之辨決其所
快之先後而已故快字又従夬

論語

學而

爲政 政治

八佾 禮樂

里仁 本心

公冶長 孔子ノ人トリ如何ヲ說キシモノ其ノ人ノ如何ヲ見テ已ノ友ヲ擇ブ
門人也 也ト言フハ詞ヲ呼ビ出ダス時又ハ繫ケ名指ス時ニ用ヰ其他ニ音ノミヲカリニ用ユル也

雍也 可使南面 称美ノ詞也

諸侯大名政ヲ聽ク當ツテ（政事堂）南ニ面シテ坐ス通例賓客ナドニ面スルニハ西ニ面スル也
故ニ雍也ニ國ノ國王トナツテ上ニ居リ下ヲ治メ得ル丈ケノ才アリト孔子ガ佐称美セシ也
子桑伯子ハ他書ニナキヲ以テ其ノ何者ナルヲ知ラザル也
可也 宜シト言フデモシテ決シテ未ダ全ク完備セズ域ニ達セザル語ナリ
先ヅ人ノ大ナルモノニ精神ヲ注ガバ小ナルモノニ精神ヲ注ガズ繫累害ヲ小ニ掌ロ及ナリ
性ヨク〳〵改之ヨリ教ヘテ行ケバ必ズ立派ナ人トナルヲ得ルノ見込アリ

敬。何事ニモセヨ物ニ注意シテオロソカニモセズ叮嚀ニスルヲ言フ故ニ曰ク謹ム也

已ニ念ニ念ヲ入ヘルヘバ余リ事極ニ遠スル故人ヲ仕フルニ簡大ヲ以テセバ至極ヨロシキモノデアル

居簡而行簡　已シ物事ヲナスニ大既ニシテ余リ極リカラナイ又様ニスル場所ニ居リカラ簡ヲ行フハヨロシイ

レド簡ニ居テ其ノ上簡ヲ行ヒニハ物事ニ締リガナキナリ

道トハ安天下ヲ以テ道トナスコノ外ニ道ハナシ

孔子ノ道ハ天下ヲ安ズル也学問トハ安天下ノ外ニ講究スルナシ

学ニ
- 徳ノ仁義礼智信
- 藝ノ礼楽射御書数

好学（目的ハ安天下也）好ムト言ハ専自分自身デ喜ンデ為スヲ言フ

孔子曰ク　尊称ニテ君ヲ敬フ意ヲ以テ言ヘルモノ也

安天下ノ中ニテ元モ仁ナルモノカラ余ケイニ有スルヤト言フト調所ノ今テ天地之大徳ハ生ト言フ

生ト云フハ天地間ノモノ下ハ蟲ケラ上ハ人ニ至ルマデ植物モ皆言フ

天ハ死ヲ好ンデ生ヲ悪ム故ニ仁ヲ以テ民ヲ撫ヤザル可カラズ。

不遷怒　常人ノ怒リトハ道ノ如何ヲ考ヘズ只ニ怒ルヲ言フ

ヲ知ラヌ故ナリ故ニキワタリヲモヌルナドト言ヘルナリ

三説アリ一寸ニ説ケバ甲ニ怒ッテ乙ニ怒ラズト言フノ義ニシテ猶一説ニ

怒ハ怒ヲ時ニ怨リ決シテ度外ニ怒ラザルヲ言フ 今ハ之レヲ上ル

記承天寺夜遊

元豐六年十月十二夜解衣欲睡月色入戶欣然起行念
無與樂者遂步至承天寺尋張懷民懷民亦未寢
相與步於中庭庭中如積水空明水中藻荇
交橫蓋竹柏影也何夜無月何處無竹柏但少閒
人如吾兩人耳

蘇東坡

凌本校語。偶然景。偶然事。事亦可多得。

修同人話　仙客也。読書堂主宇瓊傳。曾裏漢徴。

時ノ文章ニ陳ヲ水ニ見テ作リシ文ヲ

十二神ガ大服ヲ着テ月色ノ文ヲ作ル合

ヲガ両人ヲ引キ出ス

初早ク寝ン人同人張然ニゾ好テ早ク寝ル人ヲ

月ヲ見ン為メニ寝ヲ起

此ノ文章ヲ作レバ立余ガ命ヲ延ル也。我ニ此ノ文ヲ何ト命ジ様ト言ヘ

ガ如キモノ

種果坡ガ世間人ノ目前ノ事ニ泥ム事ヲ

事ガト アザケテ言ヒシ文章也

[illegible]

先キニ眼目ノ置ク所ヲ研鑽ト言フ。立命ノ定マリタレバ其ノ意ノ向ク
ル場所ニ留カラントスルモ落着ナド殿ヲ切ツテ文ヲ面白ク作ラントテ
キハ法構拵トニテ

支那歴史

義家「義光」四男 義政 を改め

心そゝ多のみをつくる 理にて道理を

出家髪を切そむる 自然の事 目出度

七旬 年二なれども切り上げて七十とする

所労物氣 宿願一類事 共に

処事幼 泡影 栖者生 攻事生之

用 甘露薬 かつぎ(一頭着)一頭之

嫡々嫡子嫡子伝

雑色

冠者殿 を倩之

抔の用を立てつゝく後生

枕 を引そばめる

(文イ此より裏 如左)

長雪輪刀の鞘の

威 を糸で縫ふ

和花ヲ移ス
文花が移サル
他動詞ノ助動詞

動が助ける
使ニ即ち絵ヲ描ク 敬語ノ意ナレバ即ち絵

調べブル他動詞
バベブベ自動詞

能力 花が移せる 可能
時ニ表ス助動詞

咲カセル クケ、働ハ使役ノ時ニ表ス助動詞
働カセタル事ヲ後ノ段ニ述ベル時ニ使ヒ後ノ段ヲ導ク

時を表す助動詞を過去ぬたもや安を
過去を別ぐことなる
未一過去　未二過去　未三過去
未を働作ぬ下係りたる時（ごとく係る時
り、ます　りむ、いでも　ねって　ぬ
ぬ、つ、　りを附ける　ぬ
形の上を八帯る色ぬ言の下を屬
者ーをありと言ふ語が　ます
人を童ノ時を八四段活ぬりを
附ける能ぬ

禪室
閑院

二 一 二 二 二

女院の崩御
一、一定とは必ずと言ふ意なり
二、女院法皇の御歎悲りも過ぎたる
自河法皇も無き美福門院の
て御歎き給ひし様を通
三、本堂燈籠殿 熊野詣も三山まで
現当二世
四、先達
今勧請
三山
注
根の本とは俗に言ふ本家の事
昔は神佛を拝する時

土業病　佛語　前世の因緣を言ふ

ミ　陳戒師　俗人之傳戒を授くる僧を言ふ

一院　鳥形院

旧国緣果業　因て種子地　地種を蒔く

時え果を生ぜ其果を生ずる行爲を業と言ふ

皆佛を言ふ語なり

ミ　有爲　常之爲　有爲を常と處行定めなき世即ち

世の事を何ぞ多きを多きなの者

娑羅双樹　娑羅と印度ある木の名なり

故なり

假りの滅度を現ハし給ふ

假りを言ふて佛化を歸圓ふて手を事ふて故ふ

仙洞　仙院の高みおわして法皇上皇を御位居を尊ぶで申
事

小監物　中務省

七

内心のゆかしき伝えをそえて

當腹　美福門院の御腹なり

禪閤

二人ながらも古かしこまぬ上

関白をも判官をも論ずるまで人びとのいふ言の

摂政の信を得る者最も有する者なり

関白忠通公をして忠実の長男なり

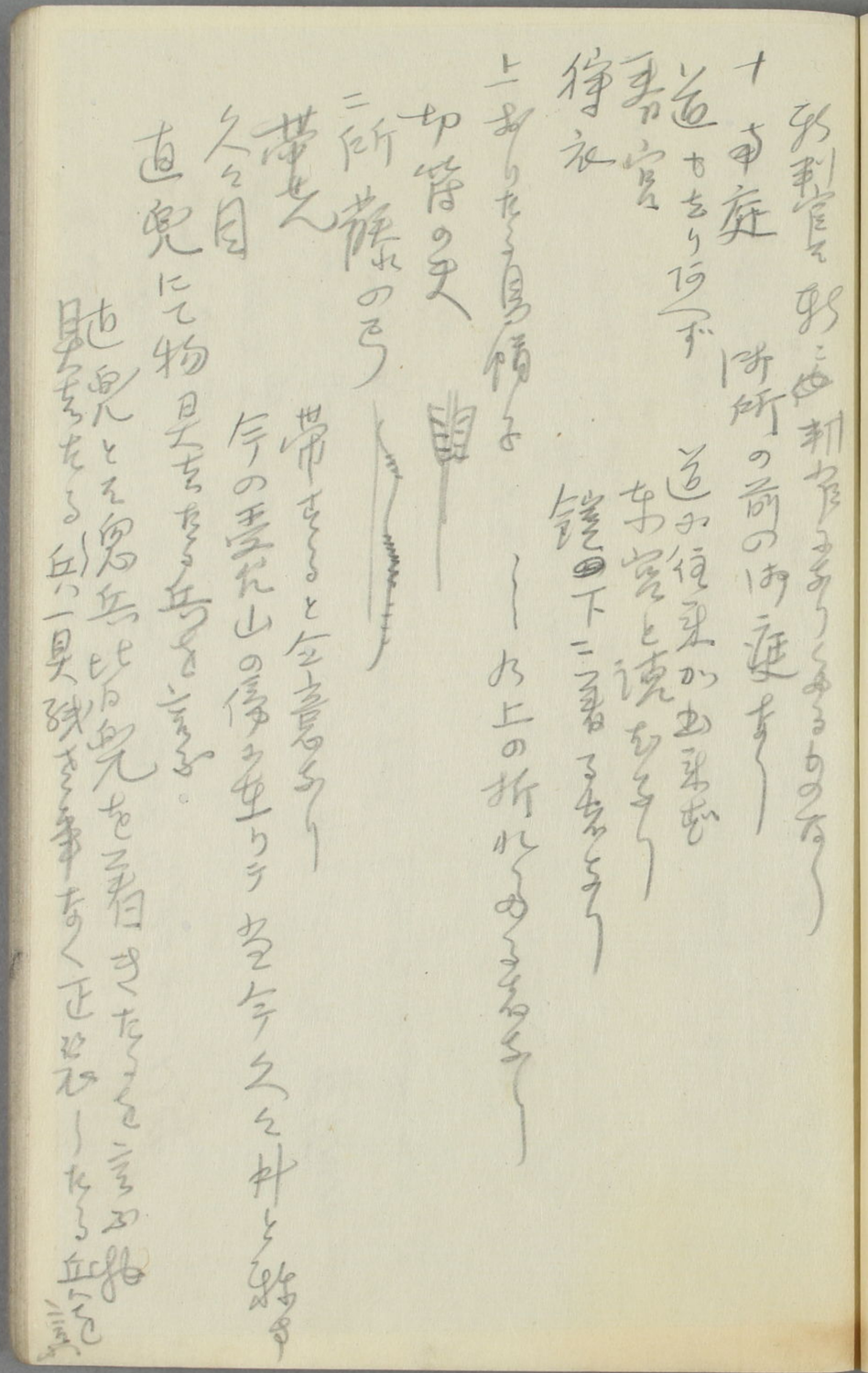
事

政務をきりとりにおこなう事

御名の宣人牛飼　いやしき賤をも使う例

外記古事　大政官の書記をも外記と申す

告訴状を記して御差出下さる
御訴状を書き差出し申候事
私好悪共す告訴す自分で能く思考して訴状
又仕掛等を罪を勘へ出を当
勘当を受けるものなり
一、
注一人ヒヤを事する人合を
一人ヒヤを損ひ改を事をする
事を修する同事を係を
自他の記係をそんを
る
禁中の陣頭
禁中陣頭ヘ禁中
の回り陣をする処



十一　筆籠簞笥
　　蔭涼を以て充分の巻材莫の上をうるおを以て塗りたる
　　黄河原氏なる馬
　　赤色の黄漆ちりめん毛色の馬
　　具を飾りある鞍を言う
第十二　奥和
〃　矢場
　　初めて矢のとびく履を言ふ
　　ちたりやまい
　　心得たりと言ふ言葉書そおい掛聲
　　親族等集まる事
十三　伊賀伊勢の事
　　平重盛の無て伊賀伊勢の
　　国書　ちよと読むる故

見参を入れよ
陛下の御目を憚けよ
弓手を左
射向の袖
左の神を云ふ
右
北陣
北門の守護する陣
罪人を引廻すなる獄
西の獄
陣
時代の変て陣屋を云ふ
是は国府と云ふ地方官の陣屋を行幸
国司と云ふ
正下の守位
正下と位位を云ふ
国司
役を申上くる時は其の地面を書きて書く事
親王諸王

十三　阿闍梨　僧の三位

十二　其身を召をれけれバ　僧をゆりて来いとおっ去やをれバ

十一　相具をてそ参る　召捕てまゐる

一籠判官　第一卿の判官

籠を得語ふをて等を任ると言ふ元

参をり人間の形の底を切りて後吾身を其の代

て捨て仏に祈者ニ逢るそ

曜宿良辰

曜ゑ七曜を言ふ宿ゑ二十八宿を言ふ良辰を七日ゟ並ぶ日ゟ

二十八宿の障ゟ言ふ也

即気色所信也　上信ゟのほ極るもた様ゟ男そ

憲亮　北狄山の僧のゑなし

尊意　北ぢ山の僧ゟ雅と言ふ

智厳 ちと言う事よ
恒利誠心 さるとき誠心
禅房 寺を言うなり
墓辛 おそん
兼ね重田ありたと
神妙云田 殊勝
墓史 大まを出仕以上を言う史
史を言仕の略なる所寺
故の大史と言うなり
時経ぬ年ばかり候をとて年ふりまをと申して
昔の節は年ばかりの長
新院一所まを仕ひ
御所の田中おえ御

都へ御出なさる
十五 御中陰
冥の照覧
果計あくて
誠志のほど侍りまお
誰なる
四幡宮
一年多神
二年の神あって
七七無吐の神
御覧せんお
恐くて
素意なびかた
兼ての御
御出なさる
御中陰
四十九日のことを言う
神々のほど恐らし
善きを御工夫もよくて
実験ひおいと思いまお
年忌なども
男山八まん宮
五年の神あって
七七日の事を法事
はらの神様
恐れるくも
成就なさる事也

事を遂ふ可きよ　とんだ日本臭紙も遣ふ可き

女房宮女をして御室を持つ坊の考宮女と言ふ

十二ヶ十日の如き祝重けて

十日に吳を祝重けてと言ふ

高院。を收取るが笑、芥や此神の事れると言ふ

白河の前高院

白河と事を処此前高院と言ふ事なり

六條判官　六條ヶ判官多き故

筆家の四男として筆家を筆家ノ

子家現四男孫なるを筆家自分の子とそて跡を他をも

朝臣　朝臣の御事

素心にく男子ある　　素を多のもちく男子を

七　話句降　　若き者共

為家を傳元私ごはを立ず一才ある

痛みくおぶる仔細ある

きとを侍ふる　　神の

相けて　　墨ごはを

おめあり　　瞳きを

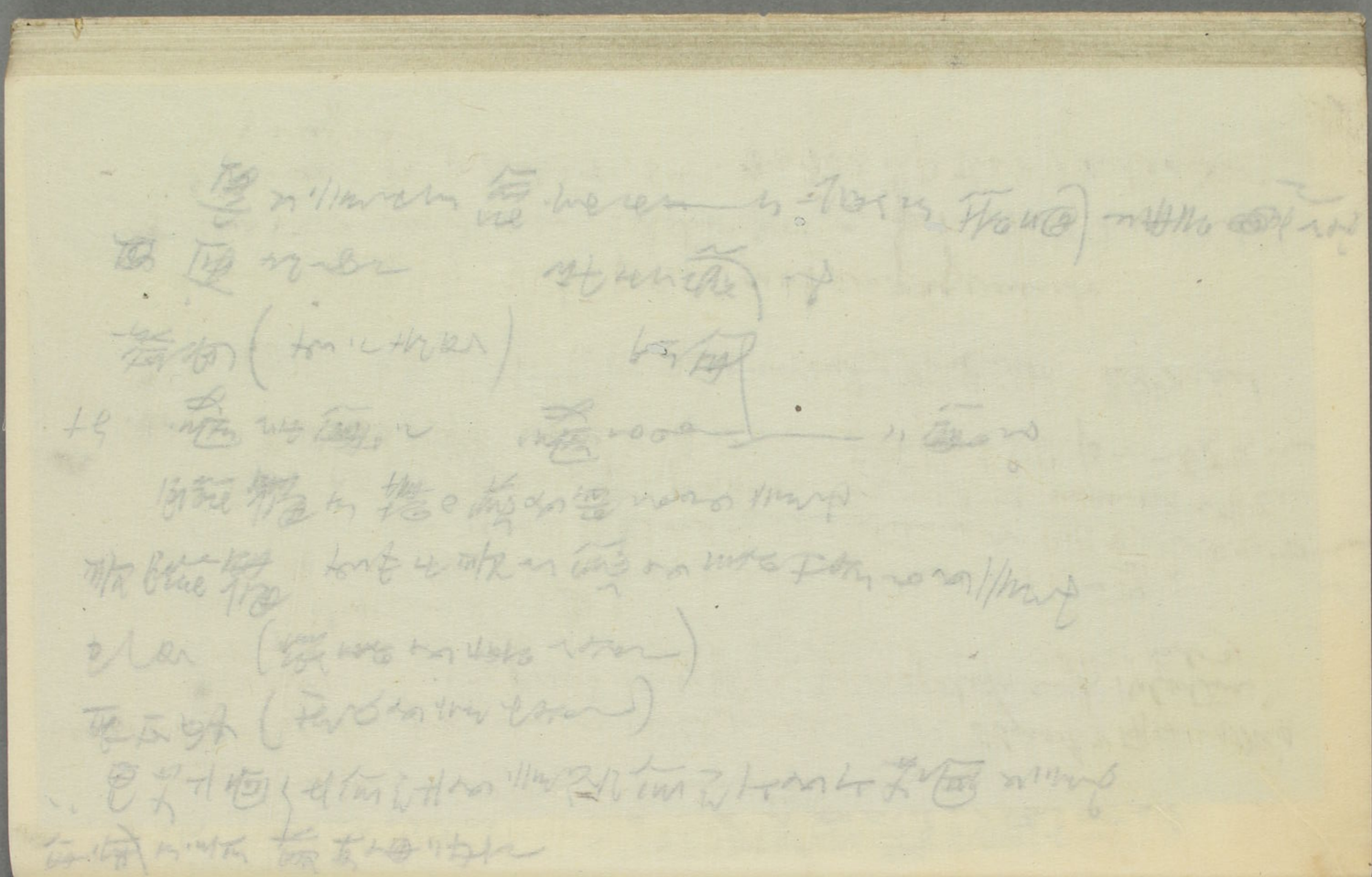
六坂重　　係元主ある子雅永嶺ある常陸近

をいふ

飾りのある冠のおもかげ

なまりある事を故

伊庭氏根地事云々
一、田地上面ヘ五位山を言ふ
即ち此方を言ふ（此方を言ふ）
一、頭書を書くを言ふ
長雲軒　雲軒を長く傍を言ふ
雲軒を軒の標を附るを言ふ
十九　嫡系傳ふ　嫡子を得る。
雑色（をうさく）
田領云々
卯と云ふを假字を以て覚え結通と書くなり



▲ 主格 (Subject of a verb is in nominative case)

† Case 1. 接続詞 / Relative pronoun or interrogative が = Object の時 this is.

• Caution 1. = 1つの verb, subject が interrogative and Relative = なる他の詞 = 代わって verb から 分離されるので = subject が nominative = 成れない事

† Case 2. 有れない動詞 / Sub = nominative + ナスの要

• Caution. 文 = verb の有る文章まで = then or as の次の代名詞 / 動詞の有るとき pronoun = こうだ nominative = 成れない事

▲ 動詞 / ~~Subject~~ ~~Verb~~ / Sing. and plu. / ~~Subject~~ / S.p = 一致する

† 1. 動詞が次の sub に p.n が一致せず sub / 附属詞 = 一致する

• sub. / 附属詞 .. verb / p.n .. not engagement.

† Sub = なる need されない Relation pro. の p.n = 成る / place

• Caution. Re. p. sub = なる時 = 動詞の S.p that / antecedent S.p + agrees

+ Verb ヲ omit スルコトモ珍シクハナイ。有名ナ例文

A bundle of papers was produced, and such particulars as the following were detailed.

• S.P ノ verb ヲ兼用シテ able ノ verb ヲ有ツテ居ハサルニ

Special Rule 2

1. and ニ依ッテ連結セラレタル plu ノ主語ガ一ツノ同ジ人又ハ一ツノ物ヲ指シ又ハ一個ニ付キ二個モシクハ二箇以上ノ sing ヲ subject トスル plu a ver

Mars and Jupiter have been visible

(イ) 一人称ヲ最モ先ニ置クトキニハ first p.

(ロ) 一人称ヲ最モ後ニ置クトキニハ second p.

2. 単数観念ヲ表ハセルモノ数個ヲ列ネテ verb ヲ sing トスル

3. Each, every, no ニ依ッテ連結セラレタルモノハ皆単数

Singular verb

4. 一語ノ成句ヲ作ルモノ二個ノ連語セラレタル場合ガアル

The derivation of these words are uncertain.

To them belong the power of licensing places for the sale of spirits.

Six months' interest are due.

The condition of the crops show that the country has suffered much.

It is an ill wind that blow nobody good.

Bless them that curse you.

The trend of the Rocky Mountains are towards the south.

八家文

彼聖人非ず夫レ凡人ノ未メイやこと
孔子伯夷叔斉ヲ
師説

愛業愛授ク

ふ歯

事攻業門

一ヶ所在

時師を執ル

題遠州郡齋

庭階筠梧相對累年契如朔友今將棄去不勝惜別之情乃留一語于壁時烟雨霽濃樹梢点綴如畫云元豐二年十月也 鶴窠

猿說

宋景文

武平產猿隕毛若金閃之可觀猿子尤奇憐而馴之不離母母黠不可致獵人以毒箭射之母被傷能生擲乳于林飲子麗已元他猿人取母皮

倘子鞭之。子即非爾。予私。予欽。
甚名鐵抱皮跳擲。予敬。
莫矣。況人也耶。

送金子生東赴[illegible]序

山陽穆[illegible]

余好讀古文。之而見其悲壯激烈者。未嘗不廢書。一嗚
之歎也。及[illegible]王猴且知有母。不安
慟。實記。大典息流淨。歎回。弗[illegible]晴曦。宋有
士如[illegible]子。而[illegible]意。[illegible]以自[illegible]
[illegible]歎。[illegible]悲矣哉。

天下何甘之色爭斯人而慈其意
以為忘而教其亡為曉曉是誰之罪歟余讀金
子幸去有志杖劍事上從余學文章竟日言學
道概然有志所至之意於是揮策拉虜求
能文之士扶其善者予師焉余飲之酒曰
子行矣東方可樂若等笑其歷憂患傷晴
唾叱咤之囂修脩富貴前時聲鶴唳

之敗軍通鐘倉拉鶴宮槓其臣敗處爭奠之
贄旒鑒斬之使之所敘良宰之英選代深
一戰場周一遍事必也慷慨激烈作之
乎敗軍之將謝罪所乎某
必則急勉駑俊以奮吾吾吾悼明日張
瞻之声朗誦擊破喉声主悲憤
子行矣勇乎哉児如子能之

東晉の滅亡

晉の武帝を侮を受けたりと雖も幾もなくして等司馬
睿り海内再び平土列裂するもの
封建の制度以来益々名あって実なきに至れり
弟の諸侯あるものも一西縣の地を有するに過ぎず
馬氏も亦たまのうちにて其國を奪ひ
て亡びるに至りし故、晉の世は魏の
七代と一たり且つ晉は相爭ふの基となれり
且つ晉の亡て晴陵の破壊の如き
魏の世もあり、後魏あり晴之即を高ひたる氣勢なきに非

ずと雖も彼佛教ほど光輝の
ありとなす美佛教を以て帝の
毎朝必ず四國より任命の譯訳あり
寶ふを得ざれば安心化ナー
法の五部として光花の
遂に其様七宮の如きものを
為法し淫祠を去り実務を
す是れ若教を顧みず道理を
加ふる句奴の種族は
ホ雑居せる者あり
分たれ晉の時

其使氏義の下ゝ
かゞ、 従部欽の従其旅扶を塞外の移さゝむ
事を論したりしが用ゐられず 永吏牧中奈を
免ぜられ
外ゝ常国ともみ
く普請の形義ゝ厚く喜ぶ者
おゝ義ゝ帝え奥ゝ減
れり

昭和十七年一月廿日　武藤学員

第九

散兵ヲ行フニ際シ何程ノ距離ニテ敵ニ接近セバ敵ノ殺傷ヲ受ケ何故ニ散兵ニハ近寄リ難キヤ

確実ナル成績ト云ハ何ヲ指スヤ

逃亡罪

孤立ニ就テハ「其人ノ両翼ヲ警戒スル側ニ敵ニ接近シ適ナル所

孤立スルハ」ノ両翼ヲ警戒スル側

和文典

第六章

第一節 動詞

動詞ハ事ヲ表ス言葉ニシテ第一種動詞ト第二種動詞トノ二種アリ

第一種動詞

第一種動詞ハ事ヲ表ス言葉ニシテ其ノ語尾ノ変化スルモノヲ謂フ

第一種動詞ハ其ノ語尾ノ変化ニ依リテ更ニ四種ニ分ツ

(一) 語尾ノ変化ニ四段アルモノ

(二) 語尾ノ変化ニ上一段アルモノ

(三) 語尾ノ変化ニ下一段アルモノ

(四) 語尾ノ変化ニ変格アルモノ

(一) 語尾ノ変化ニ四段アルモノ

此ノ種ノ動詞ハ其ノ語尾ノ変化ニ四段アルモノニシテ例ヘバ行クノ如キヲ謂フ

(行カ・行キ・行ク・行ク・行ケ・行ケ)

此ノ動詞ハ其ノ語尾ノ変化ニ四段アルモノニシテ例ヘバ行クノ如キヲ謂フ

(行カ・行キ・行ク・行ク・行ケ・行ケ)

敵ノ兵力、強盛、強弱、最後、地形、移動

未ダ確実ナラズ

軍用金行方

戦争ノ風雲ヲ告グ

戦争ノ風雲ヲ告グ

過去ニ二ツアリ 第一 第二

第二ハ事ヲ表ス言葉ニシテ其ノ語尾ノ変化スル動詞ヲ謂フ

時ニ依リテ事ヲ未ダ過去ト云フヨリ又ハ何ノ事ヲ附スルヤトイフニ依リテ殿大動詞ト限ラズ

例ヘ行ノカキケケ(行ケリ)ニハ行ケリノ中ノあがまってけとある

文法

ラリルレハリの変化にならうものあり

行カバト 行ケバトノ実ハ 行ケバの方ニ
○タリ（ハ連用ニ又ハ下ノ文ヘ附ク助動詞
連用ニノミ附ク
連用ニのミ附ク故ニタリ 行キタリ
鳥啼キタリも鳥啼キもタリ 行キタリ 流レタリ
タリもタラ タリなんなしと変化す
連用ニの下ニ為ノ助動詞ニ附ク
○ツ及ヌ 云共ニ連用ニ
例 読ツ ○ツる他動詞ニ附ク助動詞
自然ニ散リヌ 自然ニ散ル 自然ニ散ル助動詞
花ヲ散ラス 花ヲ散ラスの下ニ附ク助動詞

○又た後ち学ぶ来るもの一ものなんぢ論ずる事ナニヌヌん（ヌレ）ばの調ふ元来多くの例で　日が暮ぬ　ナニヌヌルヌ

○ツもテツツルツ

例で　日が暮ぬ　其の書テツツルツツて止ず来るもの多くありとも説ども充分なる能ず

○文　難読一四

自説ト読ム　和訳

○食馬　能ず

其の見る知ル也ニ句ハ読ノ事文ト附キるんモノニシテヨイナモノ也

俚楽ニ郢ニ天文ヲ是ニ和ル其ノ中ニ之ノ字ヲ其ノ例ニ、

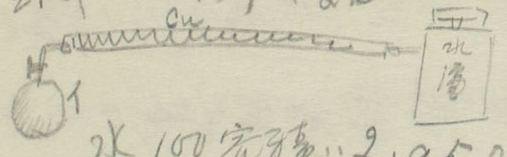
伯楽ヨマヒ

Chemistry.

硝酸ト銅ト混ジタルニハ硝酸銅ト成ル　亜鉛ハ硝酸亜鉛ヲ

錫ハ酸化錫

銅ハ冷湯ヲ錫ハ熱湯モズンテ錫ト共ニ白粉ト共ニ



仁ヒ薄カルベカラズ重キハ害毒ヲ銅ニ含ムモノハ
有毒

水 100 容積ニ 2.950
7.490.N

會稽蒙精舍序

山陽

乙丑之歲。出明人。年由太冲九齊世美。長嘯還。過我廣陵。家林交手三人有間。欲有賦詩。爰羈旅之客。於是宿舍。精舍背郭。面野鄉秀而恢遠。於是皆釋劍佩而雜坐文酒相娛也。宴指其迷秀者。彌迷美。子知此庵所得名乎。美列國之會。此庵之建也。和二百年於今。樹合抱而不愈。迷芳蘭之蔚。而精舍依然。指文酒之場。夫

二百年之前何如。海外之人。皆先上下。若彼相距
甚其鄰。師宜師宮。猶且各能相保。而況於夫子。今日
之會。有上大夫之人。有下大夫之人。有諸侯之人。列
相見。則謙讓以敬。手足何所措。世美白者。未之有
未見殺傷者。所以答素絢之說非耶。
前の事がう中の問答 △△人の答十語が

會龍頭山序

備悉崇生。及其弟信卿仲家范諸文。俾文有年於此。性喜生。訪家務家叔文文竹東。余與家叔文數往于東。定品生。未嘗之飽食也。家仲文則延領東望香耳。每生以事東游。余重陽前家叔文霞閑邨舍離飲而云。家弟仲文歌美玉色。以書勸先生要約。今春已出。九月重來家弟振華於牛車。則先生翻年東行也。於是卜日集車色之

山。之富泉名。雅趣横生。故莫底
者之姑妹也。跟李十有八女等
益著矣。每年冬日是客之。自今以往十餘年。
後倘斯游。其著者將何如哉。灌軟二家
之聚処。未指氣合之所。他恨家執文
字之交。以尋去年秋之懐也。毛義信卿。
則下世将七年前矣。人之聚散固也。
如義甫未之著耶。

隆教授执、未可期于
以作时以勉
语长调贝
云。

保元物語

十九枚 澤 清書なの 料紙 御本の後

あるべきにて候 わろいてうふさて候 似もぎりけり よくも似

試者所 北面共武士候 北面なり 進善故を

他行ばかり 歟 尊意 天皇のはさま意を歟 折 武 悪意を大也

歟 給人樂人

禪札 佛教の事候て 新義 其の外

御ふみ 期 ふみ

候人 書名 敵 自之儀 含 智 処 智 腸 なごころを深くる

見せ事 給ふ如 そらいなり多給

如七箇別 国家の利を七ぼそ なり

此ふみ 給ふ 人も 給ふ 期

旬當 宮城刺客 如。掉 集 子 誅 斬
動 賜 飯 事 掃 人。之 物 助 勞 事 部 等
物 也。仰 等。叶 宮 侍 長 中 宮
宮 軍 召 集 也 事
交 通 之 往 車 着 乘 者
署 人 引 具
藤 陽 軍 将。惟 方 使
餐 女 官 女 官 院
官 人 之 者

Grammar. 1.13.

II. attributive comp. ... infinitive が "成ル" フトキ
as; "They make him (to) labor" ヲ to ヲ用ヒスフトキ (to labor) が in.
=成ツテ labor ノ形容詞ヤリ

III. Washington was elected president

Special Rule IV
"We call the man rich" ト "We call the rich man" ト.

V.

Feeling cold, he put on his coat = ヨリテ Feeling ハ, he ヲ省略
= Cold ハ F. ノ complement ヲ" F ハ participle

Notes on
As Rand's Track ハ ニツノ comp ヲトルニ足ル direct object ヲ,
Special Rule 7, ノ verb トハ different ナル object ヲ"
The teacher asked John a question Direct O. ヲ,
Rule 第7文ヲ Pass 形ニ (question and 5 number) ヲ passive ニスルト
Object ガ主ト, ナリ残リ ヲ副ト ナル.

Washington was unanimously [illegible] president.
John Adams was elected vice president.
I give John a pen. A pen is for John.

論説

鹿児島市方言道順ムモコニ
能近取隣モニ隣ラ
ヨコ迄

ヨク論ニ於ケル母音ト行ト子音ニ関スル
(ヨ)文作ル姓ヲ知ル作ルヲ言フ

述ベ人ノ為ニモ事ヲ折衷スル等ノ意ヲ以テ
ナルベク言ハヌ事ニ致シ置クベキ事ト信ジ
居リマス
尚ホ此ノ点ニ付テハ後ニ
老彭ニ改ム
此ノ人物ニ付テハ後ニ
詳細ニ述ベマス
尚ホ此ノ外ニ尚ホ申シ置キタイ事ガ
アリマスガ他人又ハ先輩ノ人デモ
ソレニ対シ

楢谷をんぎわ
山を刻せけ海ハ毒也世なりとも君ニ我あらめやも
あらあまも旅ニ我ハ
もハ旅の空ニも住ニ
御家人 将軍ノヘラ1

武士の生きみてらふやの上ニ
散なる郭公の声
閑仕 欲りもぶこととしめ
ろ立を窓ニ雪を雪を 北面の中ゆ上下の別あれども
院の北面又雪をまるぬ妙の花

水ト純セトノ重量 ＝＝ 83.61

アルコールト純セトノ ＝＝ 7kg位

~~{ヨードホルト水ト純セトノ ＝＝＝＝ 122.293~~

純セトヨー ＝＝＝＝ 74.675

空気 ＝

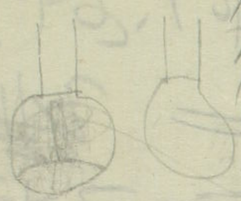
純セトヨートノ水ト

120,085
33,678
86,407
13,457
72,950

83.61

49,932
13,457
36,475

49,932
36,475
13,457



36,475) 72,950 (2,00
72,950

水ト瓶 83,61
アルコールト瓶 74.02
瓶ト重 74.645
空瓶 33.678
瓶ト水ト重 120.085

83,61−
33,678
49,932 g

74.02
33,678
40,342 アルコール

49,932) 40,342,0 (0,807
39945 6
396400

比重 0,807

塩酸ト瓶 92.6

120,085
33,678
86,407
49,932
36,475 ㎡

120,085
83,61
36,475

49,932)36,4750(0,

92,6
33,678
49,932)58,922(1.180
49,932
8990 0
4999 32
3996 80
3999 56
2240.0

水+セメント

一、本日　隊区分　縦長ニ於ケル区分法ヲ言フ
縦長、散兵接隊後備隊　散兵ヨリ後方マデノ者ヲ総ジテ言フ

一、現況　兵力地勢希望

二、部散兵後隊後備隊

三、部ト散兵接隊後備隊

数ヲ多クスルト兵力整ヒ難ク敵ヲ喪フニ必要ナリ

地形等ニ依リ区分法ヲ行フ

ふ時ノ事ナラン。而ノ外ニ戦闘ヲ成スコトナシ。
ニシテ其ノ位置ヲ定メテ行フ
ニシテ其ノ位置ヲ定メテ行フ
警備隊ハ分ケテ側面ノ援護ニ敵ノ筋道ヲ打リ
第六条 各時機ニ戦況ニ地形ニ従ヒテ適リ変ン
指揮ノ部
第七 ニハ大隊ニ於ケル中隊ノ兵員ハ
出ズルヲ以テ
諸隊連制ニ於ケル中隊ノ兵員ハ
例ヘバ他隊指揮官ノ命ニヨリ
上下左ニ気ノ毒ナル故ニ

辛六 戦闘経過、風姿ヲ後ホ
ホ来ル場合敵ノ兵力施キカ又ハ我等ノ
軍団第○工兵○○隊、隊備隊ヨリ
退却掩護ノ為メ退却敵ニ支撃破退セシ

和文典

（七十六）動詞過去たり　なれども之れも一種のものなり

若干及び副詞こうく

（八十七）動詞過去　活きの用を生じたるもの

第二過去

けり、き、

けん（来へ）　来（き）こりの付きたるもの

段々衰えたるもの

けら　けり　ける　けれ　けよ　けの動詞を変化せる事を出来る

咲きけらば　咲きけり　咲きける　咲きけれバ　咲きけよ

けらで八重にて少く古きも僅に二ことの例あるのみ
け語気を強めて云ふ意となる事あり
例 今月の着く事は一日を云ふ等也あり
玄ゝ事物を説明するに用ゐる事也あり
吹ゝ色の多種ゝ見へつゝ社の木葉の散れるなり
ゝ年間云云不ゝつゝ但ゝ来ゝとゝ為を明り除けゝ後をどゝの
字ゝ乱ゝ附ゝ きゝし、しゝ、隆、連体、とゝ、
体もなれで 体を、し、こ、
ゝ、し、こ、 体し、言

諭しもせずと言ふを誤りなり

痩せきびしかそ、そなもん、

未為ぬきしかが附ふ　未(こ)しふ来(き)しふ何れにも附ふ

為(せ)ぬせーそそ　くども世をとたゝ

ぬれども為と讀みあらをきがが附ふの

学問をなし人

けりを過去月今までに讀み終る

きを動作のまへ生せあり

例へで花候きけり来ず動作を過ぎ去れども花ちまみ

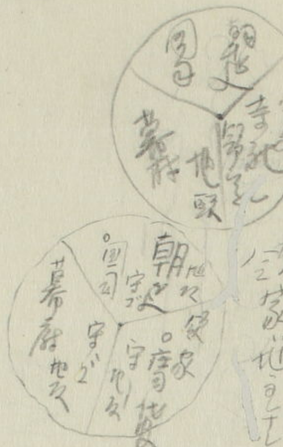
おをすきとなると残る

書ス人小野ヲ言ヒ而シテ

地文

毛唐人

本補承久騒動前カラ地頭ヲシテ
おゝ、御ろし、ハ、ご宮事ニこと方ヲシテ人ノ所領ヲ
奪ヒ北條家ニテトリ上ゲシ故共ノ空地ヲ侍ヲ多ク、ご宛ヒシ
Compaire 事ハ古ク人ヲ地ヲ預リテ毎日飯
ヲ、御ろし、ハ、自ラ其ヲ領シテ其
ヲ、ご宛ヒ故ニ此ノ方利益ヲ
ヲ、御ろし、ハ、ご宛ヒ故ニ此ノ方利益ヲ



Chemistry.

リトマス酸ヲ入レテ赤色トナルハ同液酸ナリト云フ
アルカリハ⑧酸ト appositヲ称ス
食塩ヲ改良セル食塩用ニモハ七当考ヘヲ

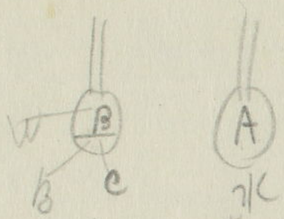
~~HCl~~
塩酸
HCL　　HNO$_3$
HONa　　HOK
ソーダ水素　ソーダ　水

HONa：NaOH水酸化ノSodium.

5-1.50cc

比色ノ色ハ二ハ固体完全ニ溶ケ居ル

W.B



C.完溶ハ同様ノ水ノ色ヲ呈ス

B+CカラC-1ヲ水ト定ム

子貢問曰。孔文子何以謂之文也。

松雪書堂

恒言是也未得其方必講求其事請于諸君子
雜言或于常日有德者必有言是謂籌德德積于內而文
辭必豐于外辭言之溥泉其深也徵其事之可久也
至又曰有言者未必有德是謂事文辭然則道亦
材於內辭言之行溥其勢大其竭而立待
矣故則行之於言有源泉也其深也徵也而自
之道也其於德和子可見矣言之行也
溥也其勢若大必自竭之道也德積于內
矣顧子諸君平日修德學文者也

日勿効行澄を去ること
右七ヶ

交名（きょうめい）　連名　六府ノ官人

六府ノ蔵人及ビ検非違使ヲ為ス

我院御各々門々固附近ノ事

右府ノ左大臣殿　北ノ陣ヨリ是ヲ北ニ出ル

百人ノ兵士　弓箭（きゅうせん）ヲ帯シ　一方ヲ必ズ固ムベシ

矢ハギ早矢ヲ取リ出ル矢軍長キ矢

射殺（いころ）サンニハ　所ヲ知ラズ兇ヲ討ツ様ニ

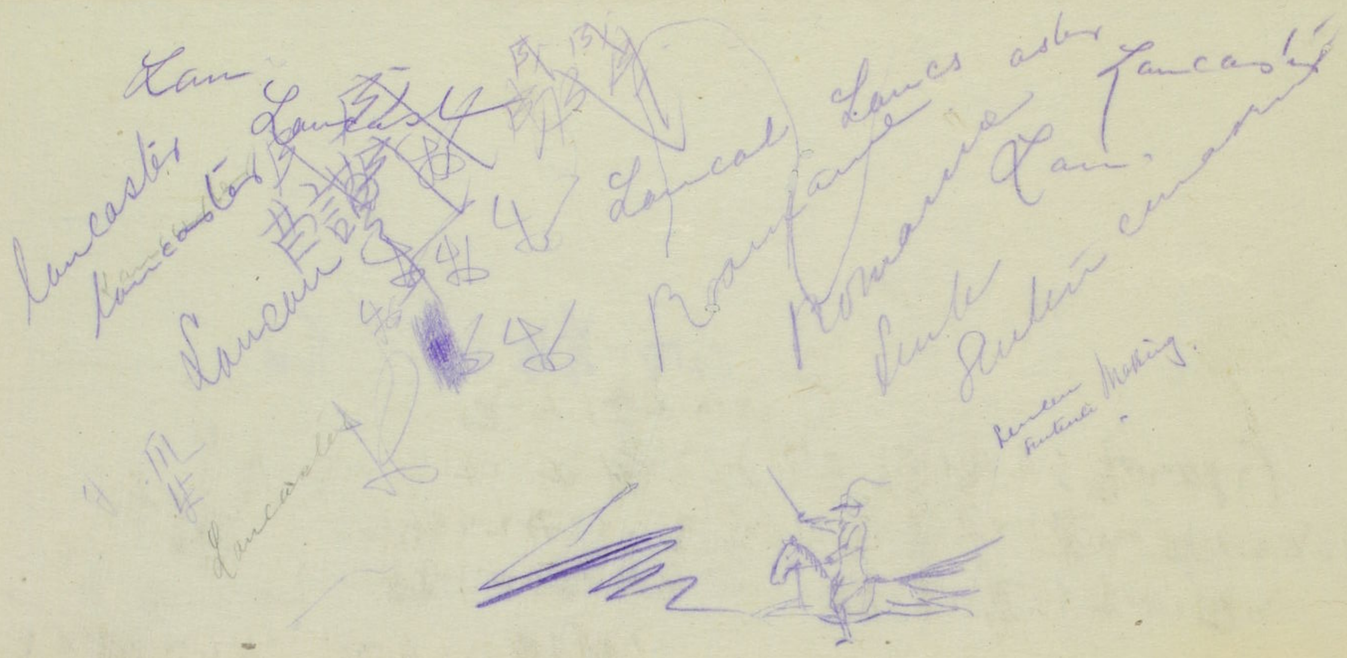
身ニ添ヘテ持ツ剣ヲ抜キ

勢もつぎこむ 味方も少なきを
悔しなて 関ヶ原のもの
古流なる 元もと義
上卿大臣或は中納言の中で公の役を
外記之を取て奏上 奏上者を言ふ
禁進 出仕を進むる 流されて
集悪 衆悪
衆落 解官
上洛 穏便

水ト精酒、塩ホルト比重
前ノ如ク風ノ乾ラスコヲ秤ニカケシニ(28)グラムヲ
得リ
該ニ於テ乾ラスコヲ乾ラスコノ容積ト水ノ減リ又之ヲ
秤ニカケシニ(58)グラムヲ得リ茲ニ於テ水ノ百十c.c.
重サメートル主方ハ(1000)キログラムナルコヲ知リ前項ニテ
又次ニアルコール類ノ百十c.c.重サメートル主方ハ(790)キログラム
自方ナルコヲ知レリ
次ハ驗ホルト実驗ヲ左ニ示ス(ホルト液)
該ニ於テ五十c.c.ヲ主方ノ(1000)グラムヲ得
而シテアルコールホルト比重ハ(1030)グラムナルヲ知リタリ
42/50=

フラスコに (28) gram 50センチメートルの方の水をいれ
又この半分の量のしお (78,25) をとかす
共にお茶のしぼり立て CC の方 (50,25) ml をまぜ合わす
ここにハチルエール (70g 4,6

水に ballet

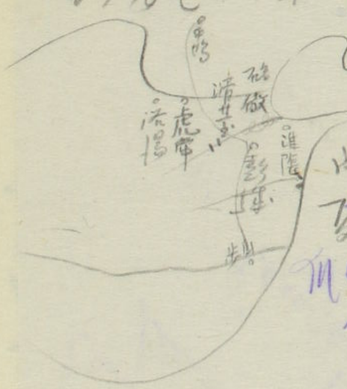


支那史 手記

宋府の史

宋一帯ハ 元帝 義符 元ノ行ナシ 文外国係ヒリ

晋ノ統ヲ宋ニ伝ヘナシ 劉



劉ト土地争奪ヲカリ 兵ノ事ハ宦官ノ下ニ同ヘ

領地ハ下女ニハ国ヲ亡ス而書史ト謀レリヲスト

帳ニ商放沈慶之（皇帝ノ策ナリ）

及ヒハ寒ヲ待テセリ

四歩ハ心ナリ 四歩ハ心ナリ

攻異說章講義

竹山精堂

此章朱注未爲得。爭諸說亦吹毛。惟以太祖比
附。似可從。曰攻攻擊也。已訓此恐意不
之相勝彼國則此衰一國一衰亦道之常已
係乎是以遠乎指摩楊墨韓子攘斥佛老用榛棘
亦迴伐澗乎高山乎寫之筆歟爭諸說亦吹毛。惟以太祖比附。似可從。曰攻攻擊也。已訓此恐意不之相勝彼國則此衰一國一衰亦道之常已係乎是以遠乎指摩楊墨韓子攘斥佛老用榛棘亦迴伐澗乎高山乎寫之筆歟爭諸說亦吹毛。惟以太祖比附。似可從。曰攻攻擊也。已訓此恐意不之相勝彼國則此衰一國一衰亦道之常已係乎是以遠乎指摩楊墨韓子攘斥佛老用榛棘亦迴伐澗乎高山乎寫之筆歟爭諸說亦吹毛。惟以太祖比附。似可從。曰攻攻擊也。已訓此恐意不之相勝彼國則此衰一國一衰亦道之常已係乎是以遠乎指摩楊墨韓子攘斥佛老用榛棘亦迴伐澗乎高山乎寫之筆歟

論之夫心之異端万変而無窮臧隨哭且方中大歧
百家雜処于春秋有韓氏有申韓氏有田駢鄒
衍之徒各時功利則蔽也出沢害其術世重刑名
則申也韓也進以張其法之弊也田駢
鄒衍突梯滑稽若陳善閉邪若聖道至順時揚善抑悪之
之言無一而改予云者不至道之実淨予生心之悪淨也
世之人知改心之悪淨予淨之道而不知改心之悪淨則
以是淨而改是悪淨也自一而争宜乎皆世悪淨

之害愈以予意感也傳曰言非
諸人之言而以心言謂予之知
所以也可哉也予之鍾二而之知
音特善大鼎欲能得聖人之
未盡故數術而論之其傳聖人
而但人有所自有也備著之

生徒人数 [illegible]

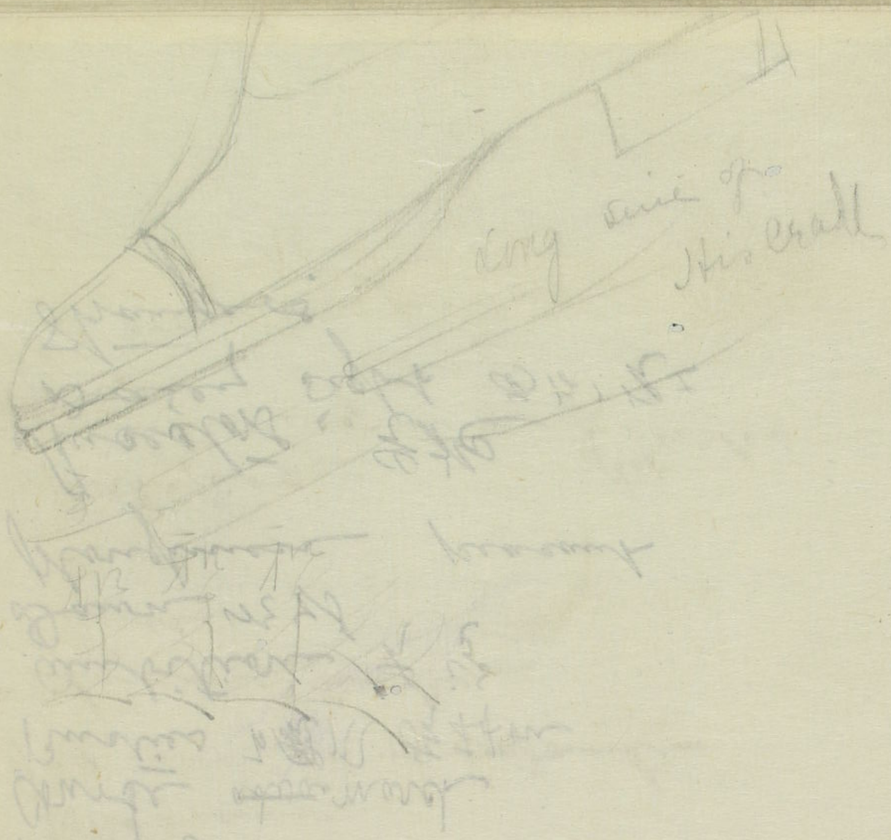
[illegible]

[illegible]

[

Wesley C
Crumbe [illegible]
Punties [illegible]
[illegible]
Dawn [illegible]
Plaughmen [illegible]

Shoeclasp, Etc
Dozen Depot [illegible]
Shampoo.



At Yokohama
Daily Stores
72. and 22. At Dobashi
20 Chinese Rakes
6. Ruchi
15. Coal.
6. Mat Box
10.6. Letter paper and Mat Sacks.

22. From Tokyama
= = No.

72
10
15
12
10.6
22
1p/.6

100
60
160

後方ノ軍位
此ノ前ニ
期
ニ於テ、横張ノ無キ
ヲ計ラントスル
而シテ展開スル方角ニ
後ノ地形ノ利ニ依ル
ヲ以テ、他隊ト合シ、戦闘ヲ
他隊ト会シ他隊ト
曙霧ニ

米軍中隊ト米軍中隊ト
米軍隊ト
米軍隊ト展開

文天

文寒月窓の燈火を照らし景色文を解せり文章の徳をして是非なれども上の世を思ほしめ建康りし為ほそ再び生へ

次高氏天下二分せられて一層倍を逞せしもの武烏江を渡らんと欲する時項王自刎して用ひ

和高氏京中一と中二道志の助勢を重ね用ひ

何つむ咲き

章ノ者ニテボサイワーニテ
トニテ高名ナリ
百家編 其ノ助ケン註

[illegible]

侯封書ニ位ヲ進ムルヲ請テ遣ハ
ス。京都ノ人民ヲ囲ミ囲中ヲ攻
拔サルヽモ仍ホ祖ラレテ益ヲ
城中ヨリ援兵ヲ通ジヲ
侯ヲ久ク囲ミ四月ノ上モ囲ヲ受ケ中モ往ノ兵粮ヲ
侯乏シクナリテ糧ヲ求メンコトヲ
遂ニ許ス武帝之ヲ囲ミ数カ月ノ間注意ヲ
万石積ヲ遮ル城中糧ヲ
拔侯降ル武帝好ヲ
侯ノ書ヲ見テ神ノ如
ニ帝ヲ

武帝を見んことを欲せず武帝
仆ずこと死すれどもこれを悔ゆ
假りお武のなの暗愛をこの国之事
大王に有名のみこれ当時都の形
事乱なり漢の皇族の置都已
亡れこ後ろも人倫の道なきを形
る事あり事組朱統
る老の大王仇馬老松之の人
人傑なり十九春の辞である書を信き剣を杖を陰る

國文

祈願（とくがん）
心（こころ）ぐるしく
へりく矣

かくごの人多あり

賀奥（かおく）千

かつしかにて

指矢
遠矢
へ出ス
ありて

鳳儀
実に深く窮めたる

義儀あるにはあらず

秋隆の先祖

rail-road

The rail-road made of iron line, and
it put paralleh on the ground for long
distance. The Engine car which have
many carriage

Rail-Roads.

The Rail-Roads ~~many~~ made of iron line, it put parallel on the ground for long distance, The engine car which have many carriages, run away about twenty miles in an hour.

論語

默而識之
德之不脩
學之不講
聞義能徙

默而識之とは つまり己れの德を默して已に得た所の者之を德と言う其の德を逃げ隠れ常に已に學ぶ事を備えねばならぬ

憂也

無指

憂と云うは 主に心配事の

我に引きかえて考えもしない事がかれこれ其人の方に好き悪しきの事が出来る

憂と云うは 主に心配事の

無指

事の有る一段所を云てその事を云ふ

心のわるい事を云ふ

天命

飛ぶがくっついて ゆくとするを言ふ

甚矣吾衰也

礼五個ノ 吉凶軍賓嘉

樂六 雲門大咸大韶大夏 大濩 大武

射五 皇 冬連 剡注 襄尺 井儀

馭五 鳴和鸞、逐水曲、過君表、舞交衢、逐禽左

書六ノ象形、會意、轉注、假借、諧声

數九、方田、粟米、差分、少廣、商功、均輸、方程、贏

大
官
附属
属官
堂

八家文帝

京(ウツバリ) 桷(たるキ) 檣櫓(マカガタ) 牀第(ツカバシラ) 楹(より)

闌干(馬勒(おこリダク)) 庪(カンヌキ) 楔(ナウダテ) 鞍轡(クラサイクツ)

杙(クイ) 楹(ハシラ) 刳垢(ワルキヨゴレ)磨光(ヨキヨアゲ) 冗(ヒマヤウ)

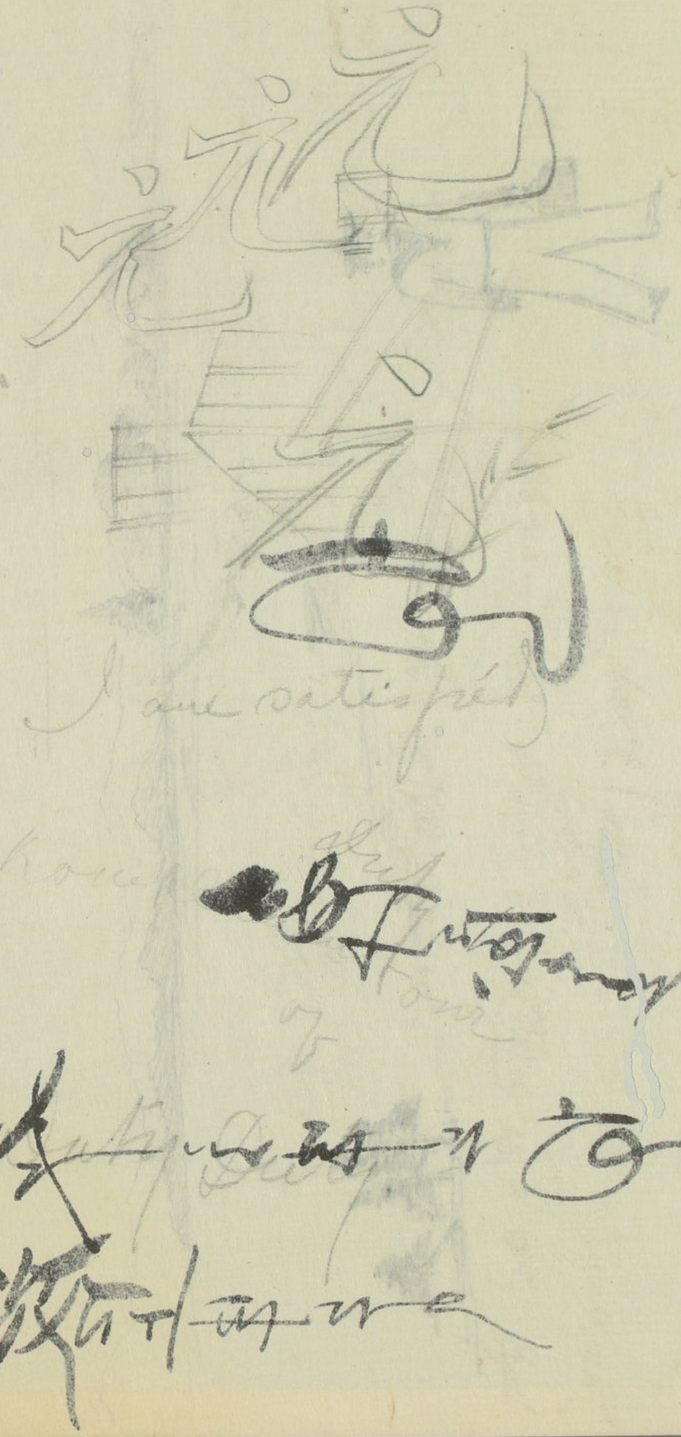
将軍塚鳴動附彗星出る事

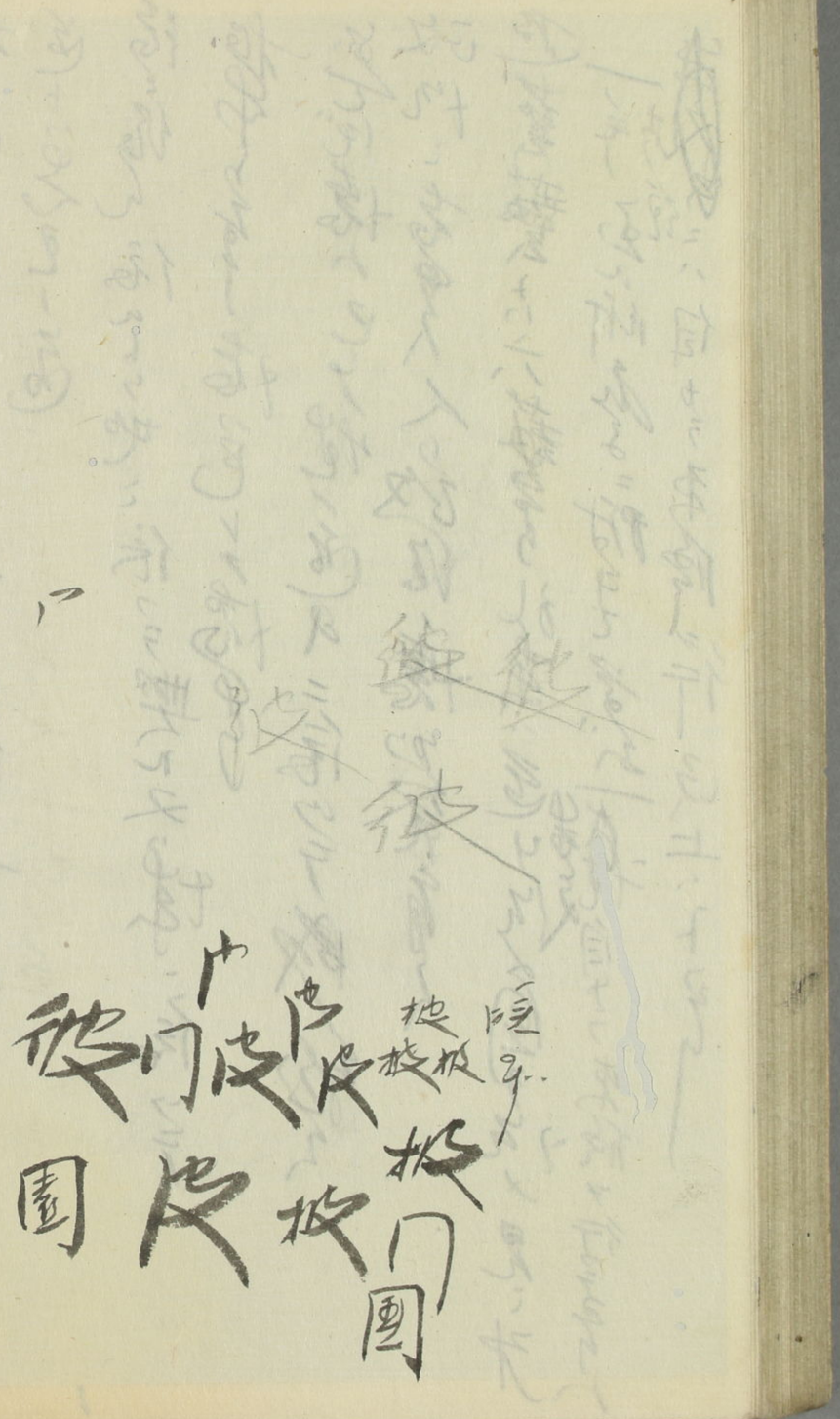
[illegible]

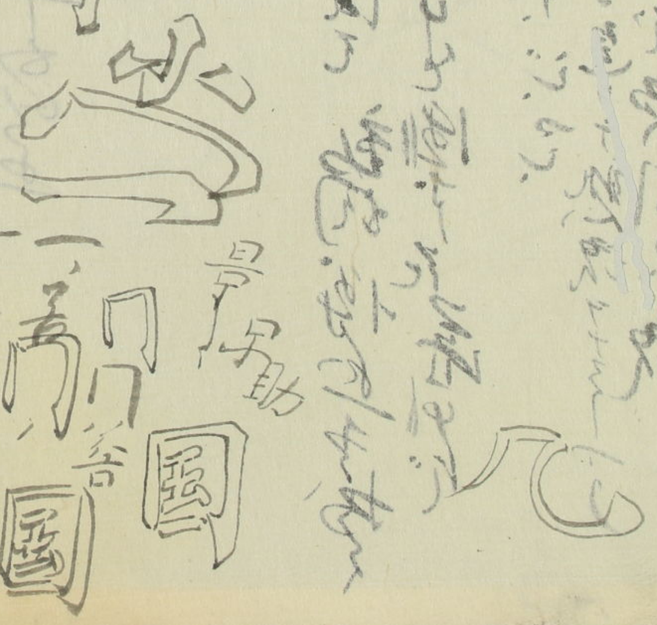
[illegible]

[illegible]

天津社、国府社、神奈備
賓旅長久 望境の之つゝを祈る
此年地
垂跡 印度ゟ震旦朝鮮佛の渡りをさゝへる
如何なる世の中
如何なる人の
心實は 佛及び佛の行ふ法、僧







Chemistry.

$2HNO_3 + Cu = Cu(NO_3)_2 + 2H$　　Cu = HNO_3 ヲ入レルト

3酸化窒素 Gas ガデル

$HNO_3 + 3H = NO + 2H_2O$

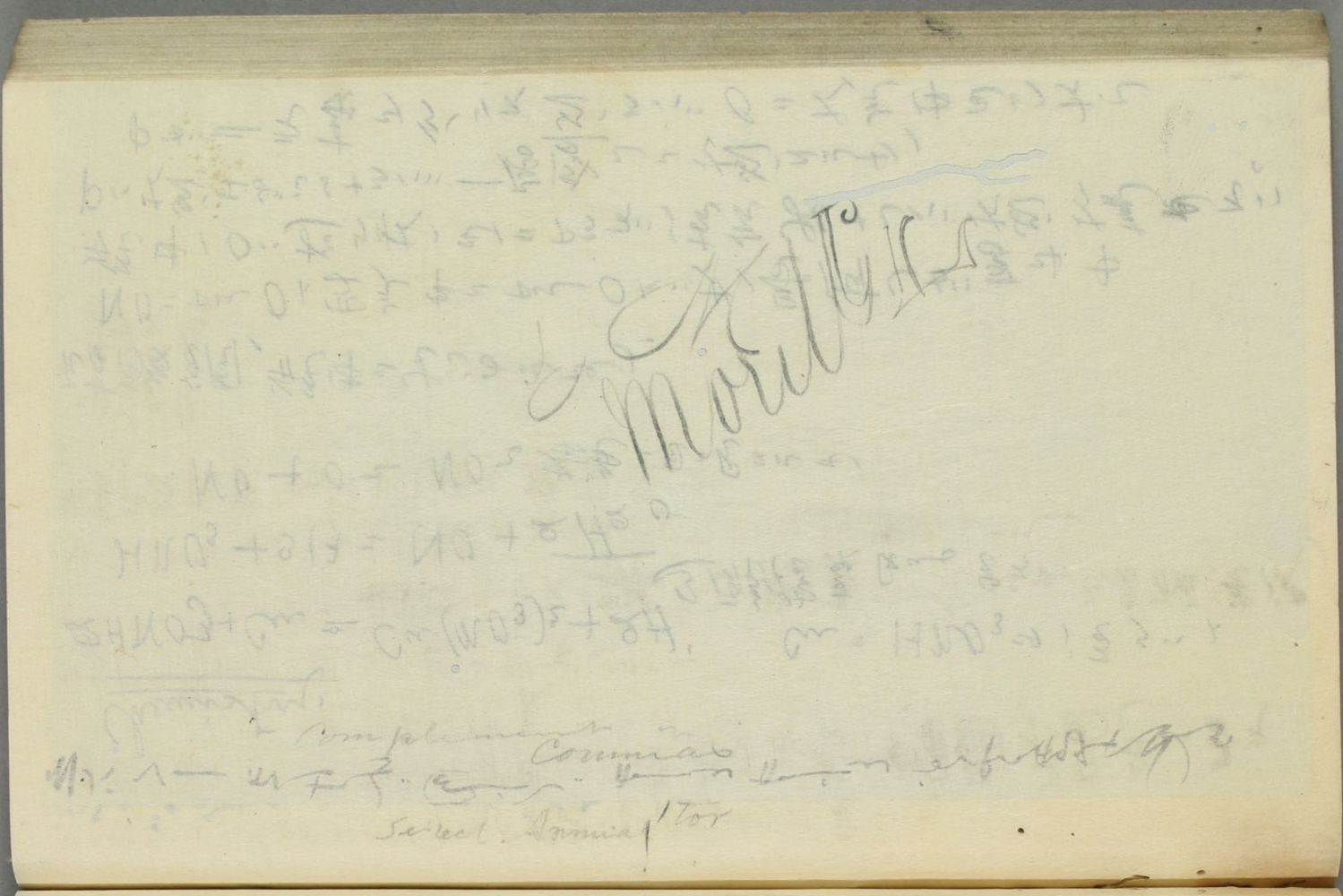
$NO + O = NO_2$ 茶色ト見ラレル

硝酸銅，純ナルモノ

NO ニハ O ト空気中ニハ O ガ多ク是所ガ多ク中

純中ノ O ハ拡リ状ノモノニ P ヲ入レル空気ガ少シバ炎ヲ出ス

P ハ燃エルトヨバ一層盛ニ炎ヲ出スヨバ O ニ大ニ関ワル



中ノ大部ニテ色ガル大半ハ二酸化鉄ノ大部ナリ
硫酸鉄ハコノ~~二酸化鉄~~ニ溶解スル為ニ褐色ニテ
石灰水ハ過酸化窒素ニ
試ス度ノ中ニ~~[redacted]~~石灰水ヲ~~[redacted]~~ビ振ト共ニテ石灰洗決
ナメシ其ニ強硫酸ヲ入レハ[redacted]ト共ニ
石灰化気ノ地中ニ無数生ス

H_2O

H_2O_2

書朝鮮地圖後

畫之織字世事之爲役爲生
於圖輿之間矣予觀此圖輿郡縣山河村里驛程
繩頭曰忘之以圖如復其地予嘗五色分此圖之何
其詳也余雖有憾焉嘗有感焉圖之無豐芑之能
序卷役之予於我聘哨詩字之情越

plan 記号
Heartaking 胸さく
threatning. 今にも
Rained
fury 怒り
Rested 休む
Sixth 陸者 Facing, 対する
Shower 驟雨 incline 傾き
Basin 水桶 plan 企画
dripped
Liquid
mind
Type
Intitude gratemony
Advancing Ark
Ruto
Movment

△ 淺草寺圖碑記

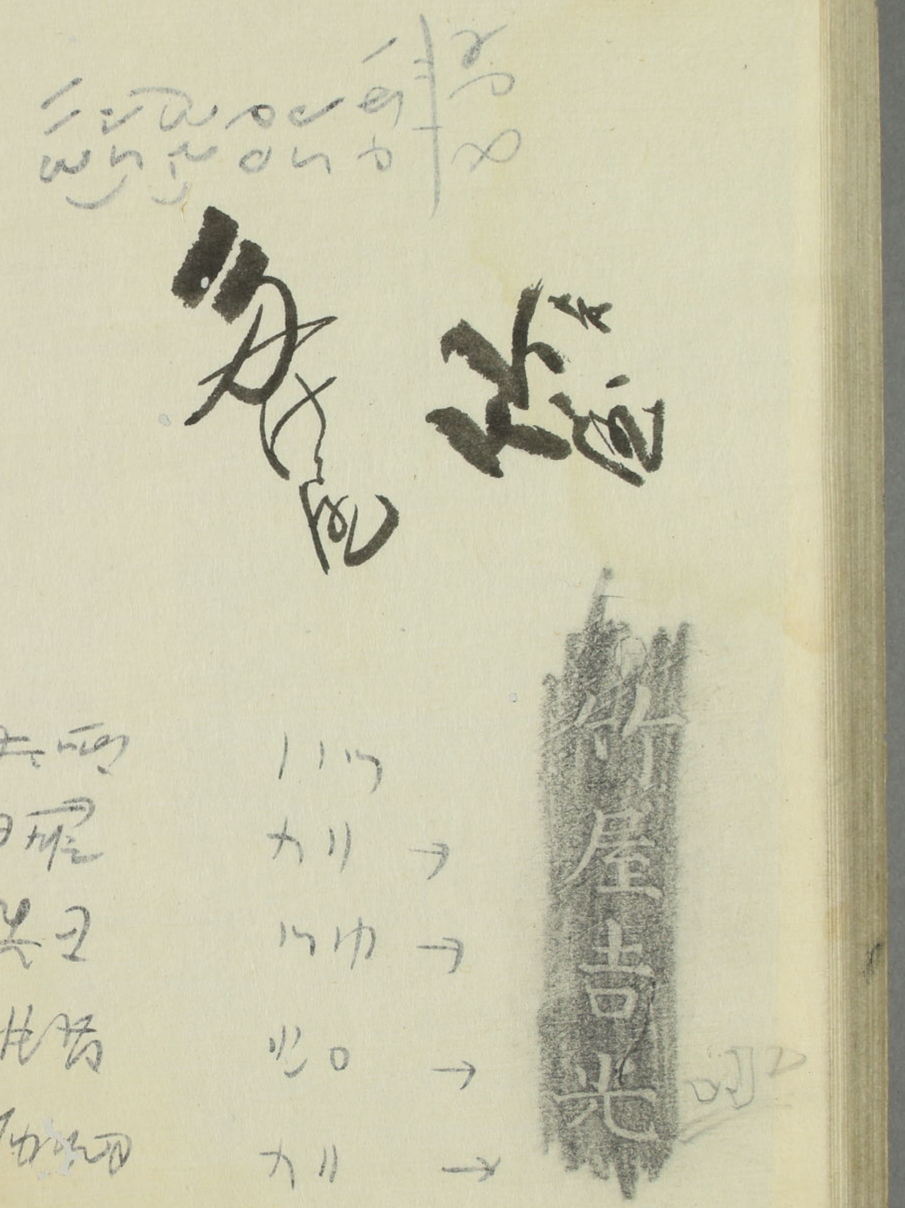
栗本鋤雲

陰六乘之爻中陽九之二陽九倍一爻易通陰六之二是
奇偶各得配爻教堪俱完者無怪乎一ま八今之
靈岳十有餘年堂宇大都之上流乎香華
古國之地尚有卅時未
廢者孤危之宮者永之初鞠之幸
信施之深至之勤精神之感
宮如計數之謀一仕其施為之利感者

△指揮衆丁拮据三載法壇淨而淸衆渴
雲來伐罔等為花到空於為妙為天
若會而不夫自證卓圖相休現王大使之
許為以永為會多人美珠過世等窮
謂為無通休。三昧是子期不亦
帝偏得所之教隨喜昭出偏佛
国玄妙寔為契若猶現王風識之
也欤 中於敬宇曰嘉播靈筆匪柬所
思

北井	一二六 ↑
宮宮	七二 ↓
西松	三〇 ↓
外山	三七 ↓
山崎	七二 ↓
朱屋	一二

113)
(375)
6926
126
968



Long.

Long Pine.

D. C. Cut.

D. Golden.

Fragrant.

Tobac

明治二十七年
十一月ニ
宮島可一郎